



《 後期がスタートしました 》

10月2日(木)より後期が始まりました。1年間の振り返り地点となりましたが、前期を振り返ってどのようなことを思いますか?自分ができたこと・頑張ったこと、できなかったこと・もっと頑張りたいかったことなどを整理して、後期の取り組みに生かしましょう。目標をこまめに設定して、その達成を繰り返すと、気づいた時には大きな成長につながっていることもあります。定期的に自分を振り返って、目標設定や見直しの機会を作りましょう。

「進路ニュース」では、学習や進路研究について、皆さんが今やるべきこと、考えるべきことと考え方のヒントなどをお知らせしてきました。皆さんの進路決定に向けて少しでも役に立てるよう、引き続き情報をお届けします。

《 進路決定に向けた活動の目安 》

◎1年生

模試やスタディサポートの受験を通して、自分の学力や苦手分野の把握は進んでいますか?復習も毎回できているでしょうか。「受けっぱなし」では模試の効果はほとんどありません。間違えた問題について、どうして間違えたか、どうしたら正解が導けるのかを考えて復習すると、実力アップにつながります。学習の質を高めましょう。

また、卒業後の進路希望について、少しずつ具体的に考えられているでしょうか。「文理選択」の時期が迫っています。自分の好きなこと、将来の目標などを考えて、前向きな選択をしましょう。

◎2年生

あと半年で受験生ですね。進路希望は定まってきましたか?志望先にはどのような受験方法がありますか?進路希望を叶えるためにどのような努力が必要ですか?目標を具体的に定めることで、学習や進路研究へのモチベーションを高め、行動することができます。周りが受験生の自覚を持つ前に受験生としての行動を先取りして、受験を優位に進めましょう!

また、「コース選択」の時期が迫っています。進路希望に合った前向きな選択ができるようよく検討しましょう。

◎3年生

本格的な受験シーズンとなりましたね。頑張っている人が困らないよう、クラスや学年の雰囲気づくりに配慮しましょう。「受験は団体戦」という言葉があるように、一人で頑張れない時も、周りの人と一緒なら頑張れる場合があります。

進学希望者は志望校や受験方法ごとに必要な手続きやその締め切りが異なるので、正確な情報を自分で責任をもって集めて、準備を進めてください。面接や小論文などの対策は、積極的に先生方に指導をお願いしましょう。

大学進学希望者は「共通テスト」の申し込みが終わったところですね。今後、総合型や推薦入試での合格が決まった人も、大学入学後に周囲との学力差に悩むことがないよう、1月の試験に向けて対策を続けましょう。

就職希望者は試験が終わり、内定が出ている人が多いと思います。2次試験がある人はしっかりと対策して臨んでください。2回目の受験に臨む人は、1回目の反省を生かすことができるようアドバイスをもらいましょう。

《 10月の進路関係行事 》

4日(土)	全統記述模試(3年)
8日(水)~10日(金)	第3回定期考査(1~3年)
14日(火)	大学見学会(1年)
18日(土)	共テ模試・看護模試④(3年)
25日(土)	漢字検定②
28日(火)	進研模試(1・2年)
29日(水)	進研模試2日目(2年)

《 11月の進路関係行事 》

1日(土)	ベネ駿台共テ模試(3年)
15日(土)	全統プレ共テ模試(3年)
21日(金)	進路学習調査、公務員講座⑦
25日(火)	マネー講座(2年)



《 総合型選抜について 》

ここからは、入試制度について紹介します。今回は「総合型選抜」について特集します。

◎総合型選抜の概要

「総合型選抜」は志望理由書・調査書などの書類選考と面接、小論文等によって選抜が行われる入試制度で、かつて「AO入試」と呼ばれていた制度が新しくなったものです。本年度の特徴として、年内の選抜で「基礎学力」を問う総合型選抜を実施する大学も増えてきました。

小論文やプレゼンテーション、口頭試問で知識がしっかりと問われる大学や、大学入学共通テストを課す国立大学も多くあります。特に国立大学の総合型選抜は、一般選抜より多くの対策が必要になりますから、決して楽な入試制度とはいえません。「総合型選抜＝学力が問われない」と誤解している人は注意が必要です。

総合型選抜は、自由に併願ができる一般選抜とは違って専願が基本です。ただし、私立大学の中には他大学との併願を認めているところもあります。その場合も、「同じ大学内の他学部との併願は不可」などの条件が設けられていることも多いので、募集要項で確認しましょう。

総合型選抜の出願開始は、9月1日以降と定められています。ただし、学校推薦型選抜や一般選抜ほど入試日程が特定の時期に集中しておらず、9月から翌年の2月頃まで複数回の入試日程を設けている学校もあります。また、出願前にオープンキャンパスへの参加や「エントリー」が必要な場合もあります。こうした動きは早ければ6月頃から始まり、志望理由等を記入したエントリーシートを提出するほか、エントリーシートに基づいて出願前に面談を行う学校もあります。出願前の動きも含めると総合型選抜は動き出しが早く、遅くとも夏休みまでには志望校を検討しておく必要があります。

◎総合型選抜に向いている人

総合型選抜に向いているのは、自分の興味関心を深掘りして「問い」を立て、それについて思考を深めていける人、そして、その問いに基づき一歩踏み出して行動できる人です。探究、部活、ボランティアなど、高校でアクティブに活動している人は、志望理由書や調査書に書くことが増えるでしょう。面接でも自信をもって話すことができます。

注意してほしいのが、「自分はこんなことをしました！」という活動報告で終わってしまうこと。大事なのは、その活動を通して自分はどんなことを考え、感じたか。また、どんなことに気づいたか。そして今後、どうしていきたいか…と深めていくことです。深めていく過程で生まれるのが「問い」なのです。

特に大学進学希望者で、もともと学びたいテーマが明確にあって、自分なりにじっくり探究を続けてきた人にこそ向いている入試といえます。ちなみに、探究を深めれば深めるほど、社会的な課題解決の難しさなどを実感し、モヤモヤ感が高まっていくものです。大学へはこのモヤモヤ感を解決するために行くわけですから、志望理由書の段階で結論を出してスッキリしてしまうと逆効果の場合もあります。自分の中に育ったモヤモヤ感を大切に、それを大学での学びに結びつけていきましょう。

こんな人が総合型選抜に向いている！

- 自分の興味関心を深掘りし、「問い」や「テーマ」として構造化できる人
- 探究活動や課外活動を通じて得た学びを、自分なりに再解釈できる人
- 表現力（書く力・話す力）があり、自分の思いや考えを伝える力がある人
- 将来のビジョンや問題意識をもち、それを大学での学びにつなげたい人
- 志望校の教員・研究分野・教育方針を調べ、「この大学で学ぶ理由」を具体化できる人